

コンバインでの収穫 11月2日



収穫直前のイネです。すっかり乾燥し、刈り取るには充分です。



良い実りと思われます。稲穂の頭が垂れています。



角のイネは手で刈り込められました。コンバインはここから田んぼに入ります。



コンバインは、イネを刈り取り、もみを稲穂から外し（脱穀）、機械の中にためます。イネの茎は切りこまれ、後ろから放出されます。わらは、田んぼの肥料となり、土壌を改良し来年の実りのために役立ちます。全て自動です。

農業は、最高の循環型産業です。



コンバインの進行に合わせて、イネが刈り取られて行きます。  
中央は、操作する人。 砲筒のような、まるで戦車かと思わせます。 さーて・・・



刈り取られたイネが並べられ、後部に送られます。機械の中で脱穀、イネの切込みがされています。



砲筒の正体はこの通りです。機械内に蓄えられたモミ米は筒を通して、ホッパーと呼ばれる軽トラに積まれた器具に移されます。

モミ米は、私たちが、お米を渡された作業場に運ばれ、乾燥機に入れ、機械で乾燥します。仕上がりは翌日です。



収穫中の水田でカラスとノスリとの空中戦がありました。ノスリは猛禽類、田んぼから機械に追われ出てくる餌を追って飛来します。カラスは領域を侵犯するノスリに対抗しての戦いと見て取れました。

寺田縄は自然味豊かな土地です。冬になると、渡りの飛来で賑やかになります。



今の田んぼです。

長く残されたイネを乾燥し、畑の霜よけ、長ネギを植え付けた時の溝に埋め込みます。切り刻んで土に混ぜ込み、土壌の改良にも利用します。用途は沢山です。